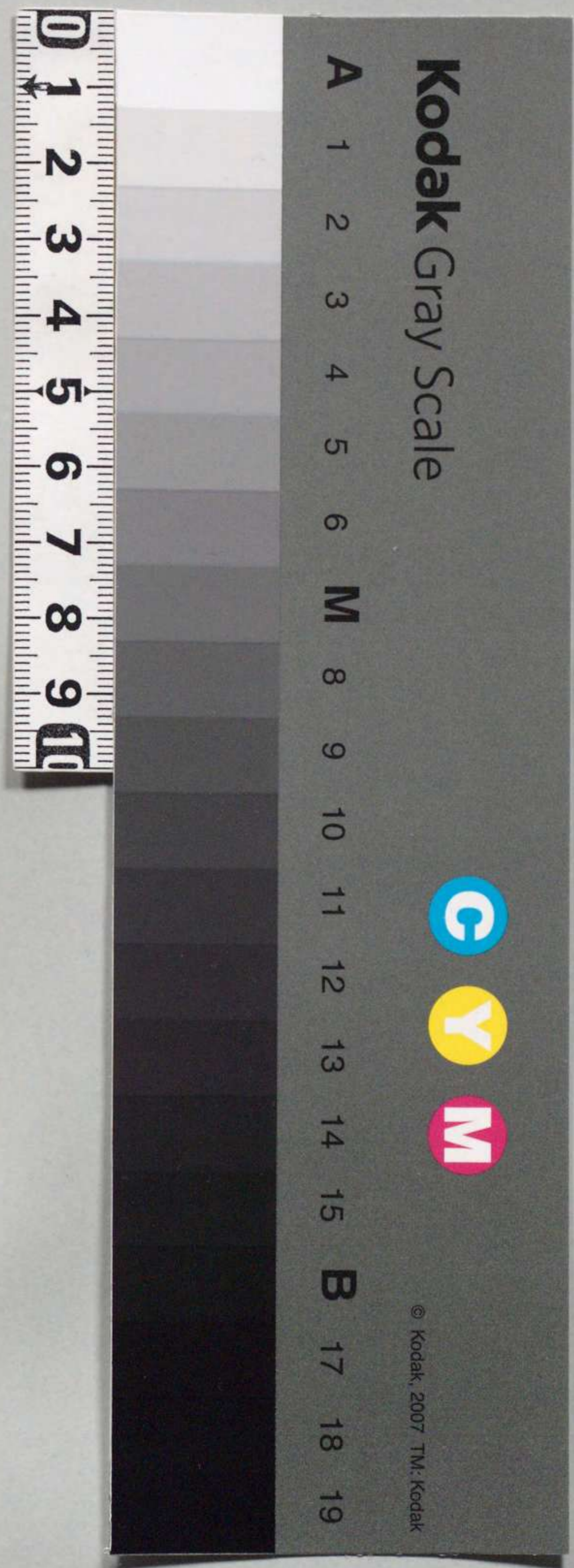


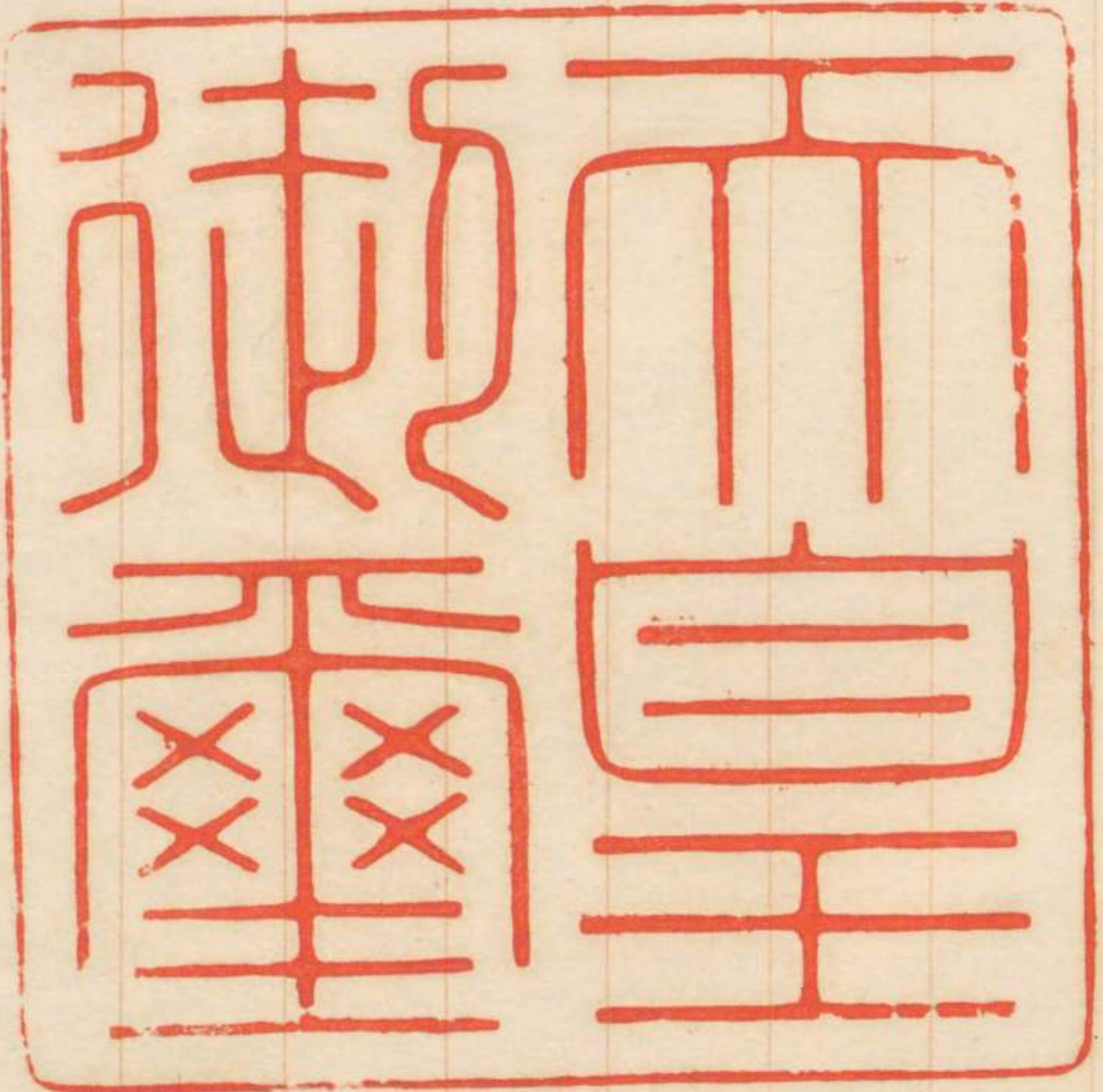
勅令第四百十九号

72



朕捕獲審檢令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

睦仁



明治二十七年八月二十日

月

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
海軍大臣伯爵西郷從道
外務大臣 陸奥宗光

勅令第四百十九號

捕獲審檢令

第一章 捕獲審檢所高等捕獲審

檢所組織及職權

第一條 捕獲事件ハ第一次ニ於テ捕獲

審檢所第二次ニ於テ高等捕獲審檢所

之ヲ檢定ス

第二條 捕獲審檢所ニ長官一人及評定

官六人ヲ置ク

長官ハ控訴院ノ判事ヲ以テ之ニ補ス

評定官ノ中一人ハ海軍將校二人ハ判
事一人ハ主理一人ハ法制局參事官一
人ハ外務省參事官若クハ書記官ヲ以
テ之ニ補ス

第三條 高等捕獲審檢所ニ長官一人及
評定官八人ヲ置ク
長官ハ樞密顧問官ヲ以テ之ニ補ス
評定官ノ中一人ハ樞密顧問官二人ハ
海軍將官三人ハ大審院ノ判事一人ハ
法制局長官一人ハ外務省政務局長ヲ

以テ之ニ補ス

第四條 捕獲審檢所長官及高等捕獲審
檢所長官ハ各其ノ審檢所ノ事務ヲ總
理シ自ラ審檢ノ首席トナリ故障アル
トキハ各其ノ審檢所ノ評定官ニ首席
ヲ命スルコトヲ得

第五條 捕獲審檢所及高等捕獲審檢所
ニ檢察官各二人ヲ置ク
捕獲審檢所ノ檢察官ハ檢事高等捕獲
審檢所ノ檢察官ハ高等行政官ヲ以テ

之ニ補ス

第六條 捕獲審檢所及高等捕獲審檢所

ノ長官、評定官及檢察官ハ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ之ニ補ス

第七條 捕獲審檢所及高等捕獲審檢所

ニ書記ヲ置ク

書記ハ判任トス各長官之ヲ命ス

第八條 捕獲審檢所ノ審問檢定ハ首席

及評定官ヲ併セテ五名以上高等捕獲

審檢所ノ檢定ハ首席及評定官ヲ併セ

テ七名以上ノ列席合議ヲ要ス

第九條 捕獲審檢所及高等捕獲審檢所

ノ開閉ハ臨時勅令ヲ以テ之ヲ定ム

高等捕獲審檢所ハ之ヲ東京ニ置ク捕

獲審檢所ノ位置ハ勅令ノ定ムル所ニ

依ル

第二章 捕獲審檢手續

第十條 拿捕ヲ行ヒタル艦船ノ指揮官

ハ拿捕シタル船舶ヲ捕獲審檢所所在

ノ港内ニ引致シ又ハ代理士官ヲ其ノ

日

月

日

月

日

月

日

月

日

船内ニ乗込マシメ同港ニ回航ヲ命シ
到達ノ上直ニ審檢所ニ供述書ヲ差出
スヘシ
供述書ニハ拿捕ヲ行ヒタル理由竝ニ
其ノ行爲ノ正當ナルヲ證スヘキ一劫
ノ事實ヲ記載シ之ニ拿捕シタル船舶
ノ船長若クハ海負ヨリ受取リ又ハ其
ノ船内ニ於テ發見シタル一劫ノ帳簿
及書類ヲ添附スヘシ
第十一條 捕獲審檢所長官第十條ノ供

述書ヲ受取リタルトキハ其ノ事件
ニ付キ評定官ノ一名ヲ指名シテ擔任
評定官トスヘシ
擔任評定官ハ直ニ指揮官又ハ
代理士官竝ニ拿捕セラレタル船
舶ノ船長ノ面前ニ於テ提出
書類ヲ開封シ其ノ目錄ヲ調製
スヘシ
第十二條 擔任評定官ハ拿捕セ
ラレタル船舶ノ船長及海負

ノ申供ヲ聽取リ又必要ト認
ムルトキハ拿捕ヲ行ヒタル艦
船ノ乘負並ニ拿捕セラレタル
船舶ノ乗客ノ申供ヲ聽取リ書
記ヲシテ筆記セシムヘシ

第十三條 擔任評定官拿捕ノ全部若
クハ一部ヲ捕獲トスヘキカ又ハ
解放スヘキカラ檢定スルニ必要ト
認ムル事實ノ調査ヲ了ヘタルトキ
ハ其ノ調査書ヲ作り之ニ第十條ノ供

述書及其ノ附属書類ヲ添へ捕獲審檢
所檢察官ニ送付スヘシ

第十四條 檢察官ハ檢定ニ關スル意見
書ヲ作り其ノ送付ヲ受ケタル一切ノ
書類ヲ添へ捕獲審檢所ニ提出スヘシ
檢察官意見書ヲ作ル為ニ必要トスル
トキハ事項ヲ指定シテ其ノ調査ヲ擔
任評定官ニ求ムルコトヲ得

第十五條 檢察官ノ意見書ニ於テ拿捕
シタル物件ヲ即時解放スヘキ旨ヲ主

張シ捕獲審檢所ニ於テモ亦之ヲ正當
ト認ムルトキハ捕獲審檢所ハ即時解
放ノ檢定書ヲ作り之ヲ檢察官ニ送付
スヘシ

第十六條 檢察官ノ意見書ニ於テ捕獲
ト檢定スヘキコトヲ主張スル場合并
ニ捕獲審檢所ニ於テ檢察官ノ即時解
放ヲ主張スル意見書ヲ不當ト認ムル
場合ニ於テハ捕獲審檢所ハ公告ノ手
續ヲ為スヘシ

前項ノ公告
ト檢定セラ
ル、トスル關
起算シテ三十日
願スルコトヲ得ル旨
前項ノ期間内ニ訴願書
キトキハ捕獲審檢所ハ直ニ審檢ノ手
續ヲ為スヘシ但檢察官ノ申請アルト
キハ別ニ審問ノ手續ヲ為サズ直ニ檢
定ヲ為シ檢定書ヲ檢察官ニ送付スヘ



ニ掲載シ捕獲
利益ヲ害セラ

張シ捕獲審檢所ニ於テモ亦之ヲ正當
ト認ムルトキハ捕獲審檢所ハ即時解
放ノ檢定書ヲ作り之ヲ檢察官ニ送付
スヘシ

第十六條 檢察官ノ意見書ニ於テ捕獲

ト檢定スヘキコトニ主張スル場合并
ニ捕獲審檢所ニ於テ檢察官ノ即時解
放ヲ主張スル場合ニ於テ
書ヲ不當ト認ムル
場合ニ於テ
檢所ハ公告ノ手
續ヲ為ス



前項ノ公告ハ之ヲ官報ニ掲載シ捕獲
ト檢定セラル、ニ依リ利益ヲ害セラ
ル、トスル關係人ハ公告ノ翌日ヨリ
起算シテ三十日以内ニ書面ヲ以テ訴
願スルコトヲ得ル旨ヲ記スヘシ
前項ノ期間内ニ訴願書ヲ差出ス者ナ
キトキハ捕獲審檢所ハ直ニ審檢ノ手
續ヲ為スヘシ但檢察官ノ申請アルト
キハ別ニ審問ノ手續ヲ為サス直ニ檢
定ヲ為シ檢定書ヲ檢察官ニ送付スヘ

シ

第十七條 訴願書ニハ訴願ノ要旨ヲ述
ヘ其ノ證據ト為ルヘキ書類物件ヲ添
附スヘシ

第十八條 第十六條ノ期間内ニ訴願書
ヲ差出シタル者アルトキハ日時ヲ指
定シテ口頭審問ヲ開キ檢察官及訴願
人ヲシテ陳述ヲ為サシム但訴願人ハ
帝國ノ辯護士ヲシテ辯護セシムルコ
トヲ得

口頭審問ヲ了ヘタルトキハ直ニ又ハ
別ニ日時ヲ指定シテ檢定ヲ宣告スヘ
シ但訴願人欠席スルモ檢定ヲ延期セ
ス

第十九條 捕獲審檢所ニ於テ檢定ニ至
ルマテノ間更ニ證據調査ヲ必要トス
ルトキハ其ノ調査ヲ擔任評定官ニ命
スルコトヲ得
檢察官及訴願人ハ檢定ニ至ルマテノ
間新ナル事實及證據ヲ提出スルコトヲ得

第二十條 前數條ノ外捕獲審檢所ノ審
檢ノ手續ニ關スル規程ハ同審檢所之
ヲ定ム

第二十一條 檢察官及訴願人ハ捕獲審
檢所ノ檢定ニ對シ高等捕獲審檢所ニ
抗議ヲ為スコトヲ得

第二十二條 抗議ノ期間ハ檢定宣告又
ハ檢定書送付ノ翌日ヨリ起算シテ二
十日トス

第二十三條 抗議ハ抗議書ヲ捕獲審檢

所ニ提出シテ之ヲ為スヘシ

抗議書ニハ抗議ノ要旨ヲ述ヘ其ノ理
由ヲ詳記スヘシ

訴願人ノ抗議書ニハ帝國ノ辯護士ノ
記名ヲ要ス

第二十四條 檢察官ノ抗議書ハ捕獲審
檢所謄本ヲ作りテ之ヲ訴願人ニ示シ
訴願人ノ抗議書ハ之ヲ檢察官ニ示シ
十日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシム
訴願人ノ答辯書ニハ帝國ノ辯護士ノ

記名ヲ要ス

第二十五條 答辯期間ヲ經過シタルト
キハ捕獲審檢所ハ抗議ノ書類ヲ高等
捕獲審檢所ニ回送スヘシ
高等捕獲審檢所ニ於テ更ニ事實若ク
ハ證據ノ調査ヲ要スト認ムルトキハ
前項ノ書類ヲ捕獲審檢所ニ返送シテ
調査ヲ命ス
捕獲審檢所ハ擔任評定官ヲシテ前項
ノ調査ヲ為サシメ具ノ書類ハ之ヲ高

等捕獲審檢所ニ提出スル前檢察官及
訴願人ニ示スヘシ

第二十六條 高等捕獲審檢所ハ書類ニ
依リ檢定ヲ為ス

第二十七條 高等捕獲審檢所ノ審檢ノ
手續ニ關スル規程ハ同審檢所之ヲ定
ム

第二十八條 捕獲ト檢定セラレタル物
件ハ國ノ所得トス

第二十九條 拿捕シタル船舶及貨物ハ

檢定確定ニ至ルマテノ間海軍大臣ノ
定ムル所ニ依リ海軍軍衙ニ於テ之ヲ
保管ス

第三十條 檢定ノ執行ハ捕獲審檢所ノ
檢察官之ヲ為ス

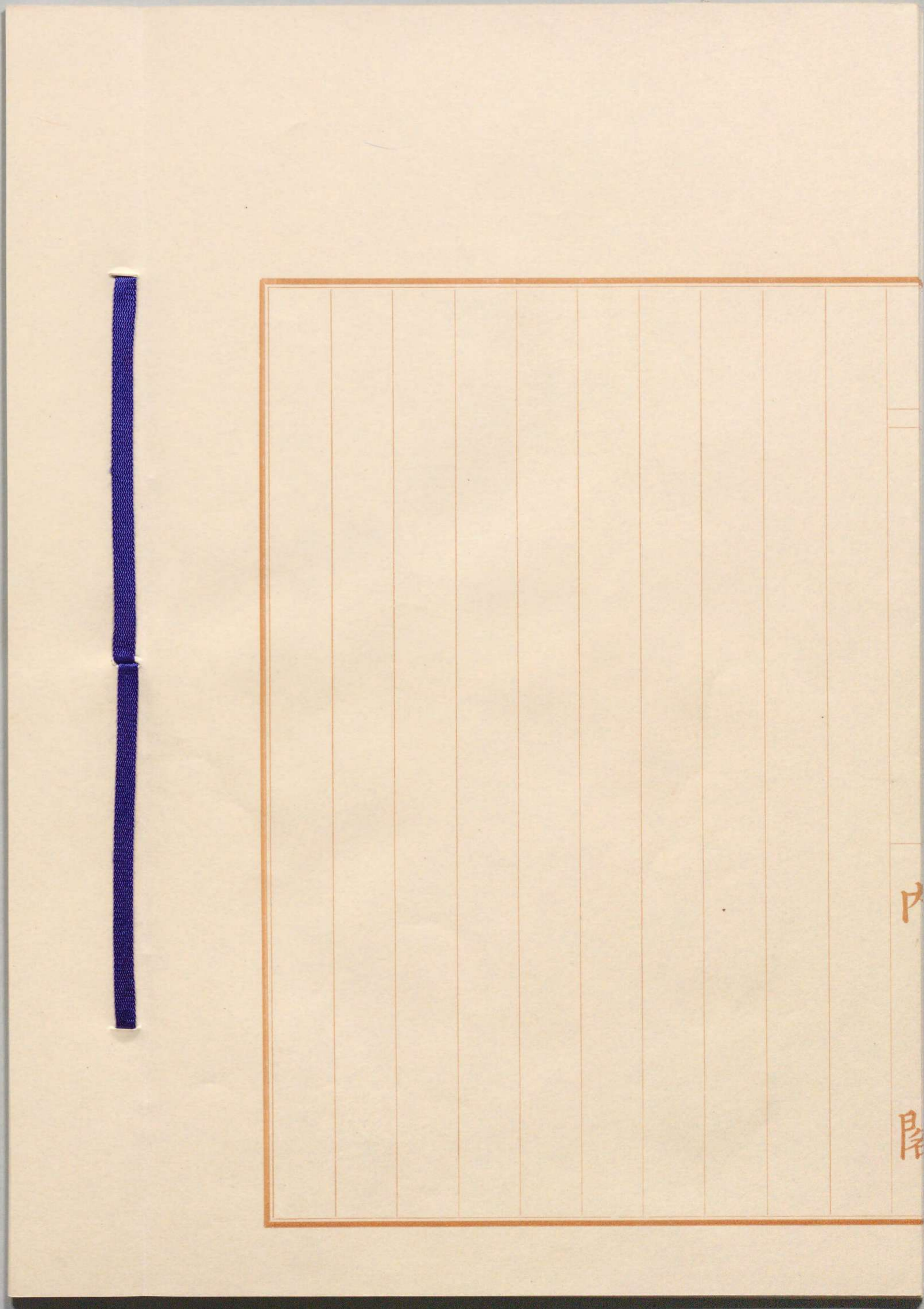
捕獲審檢所ノ檢察官ハ檢定ノ執行ニ
關シ海軍軍衙ノ援助ヲ求メ及警察官
吏ヲ使用スルコトヲ得

第三十一條 本章ノ規程ハ特別ノ事情
ニ依リ船舶ヲ引致セラル場合ニ於テ

モ施行シ得ヘキ範圍ニ於テ之ヲ準用
ス

附 則

第三十二條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行
ス



内

目録